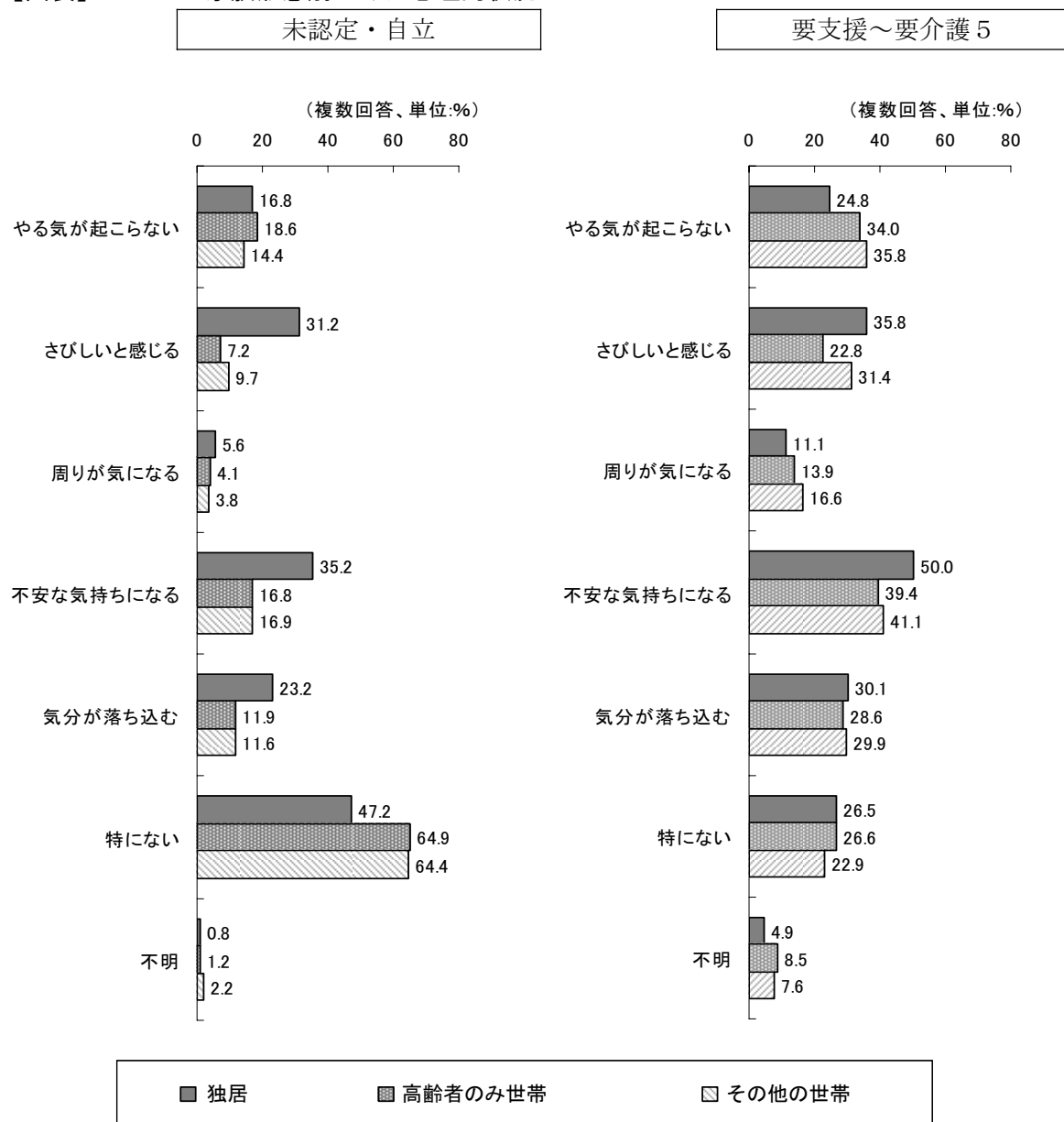


○ また、心理的状况について尋ねたところ、家族形態別にみると、未認定・自立、要支援～要介護5ともに、独居世帯では「さびしいと感じる」や「不安な気持ちになる」などの心理的状况にある人が多くなっています。

【図表】 3-6 家族形態別にみた心理的状况

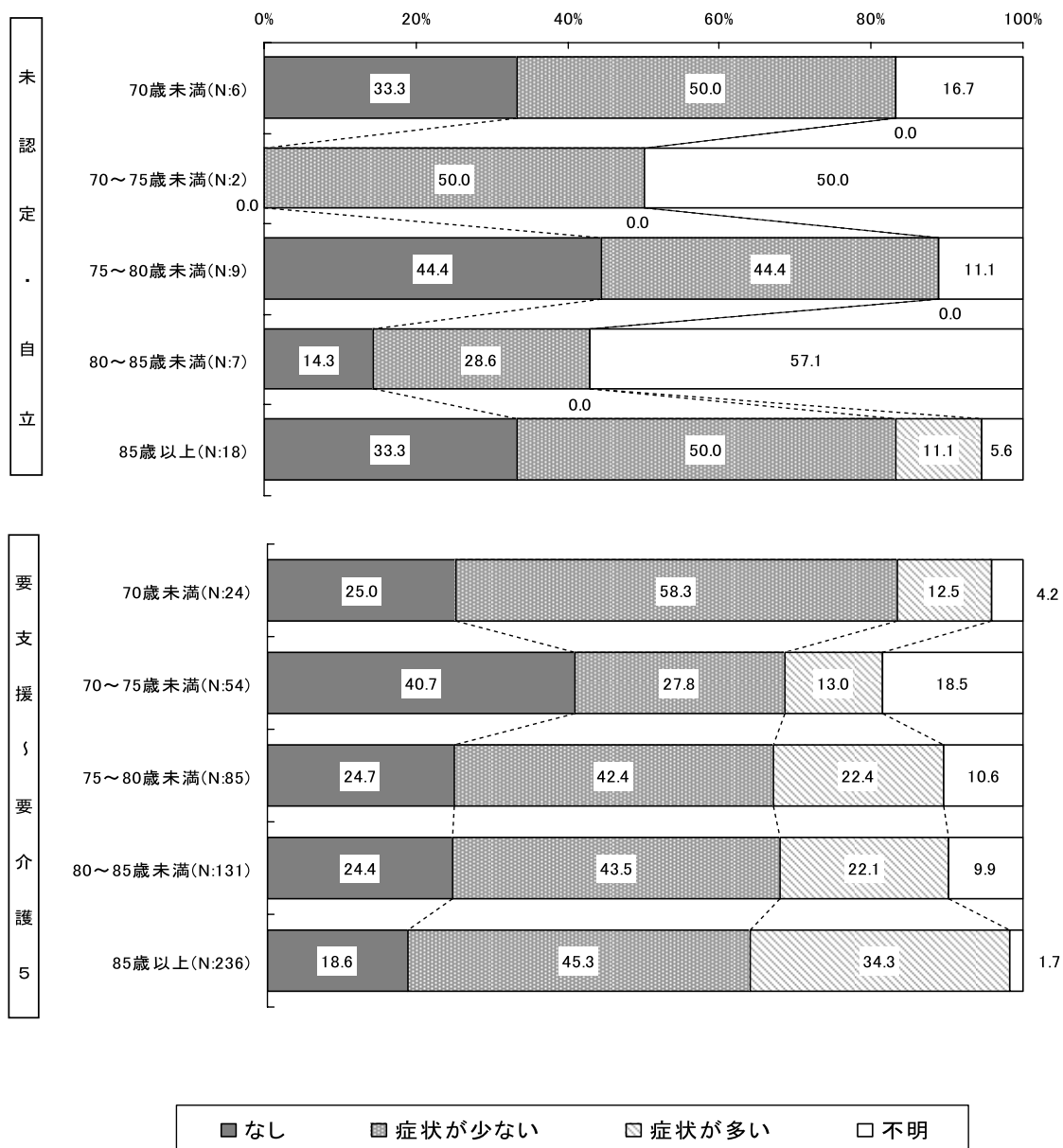


N:	未認定・自立	要支援～要介護5
独居	125	226
高齢者のみ世帯	345	259
その他の世帯	320	475

資料：文京区高齢者実態調査報告書（平成17年3月）

- 認知症に関する調査では、要支援・要介護認定者について年齢別に認知症の可能性のある症状の数を見ると、70歳未満では12.5%、70歳から75歳未満では13%が「症状が多い」としていますが、75歳以上になると、その割合が増加して20%以上となり、85歳以上では34.3%と年齢とともに認知症の可能性のある症状の割合が高くなる傾向が顕著になっています。

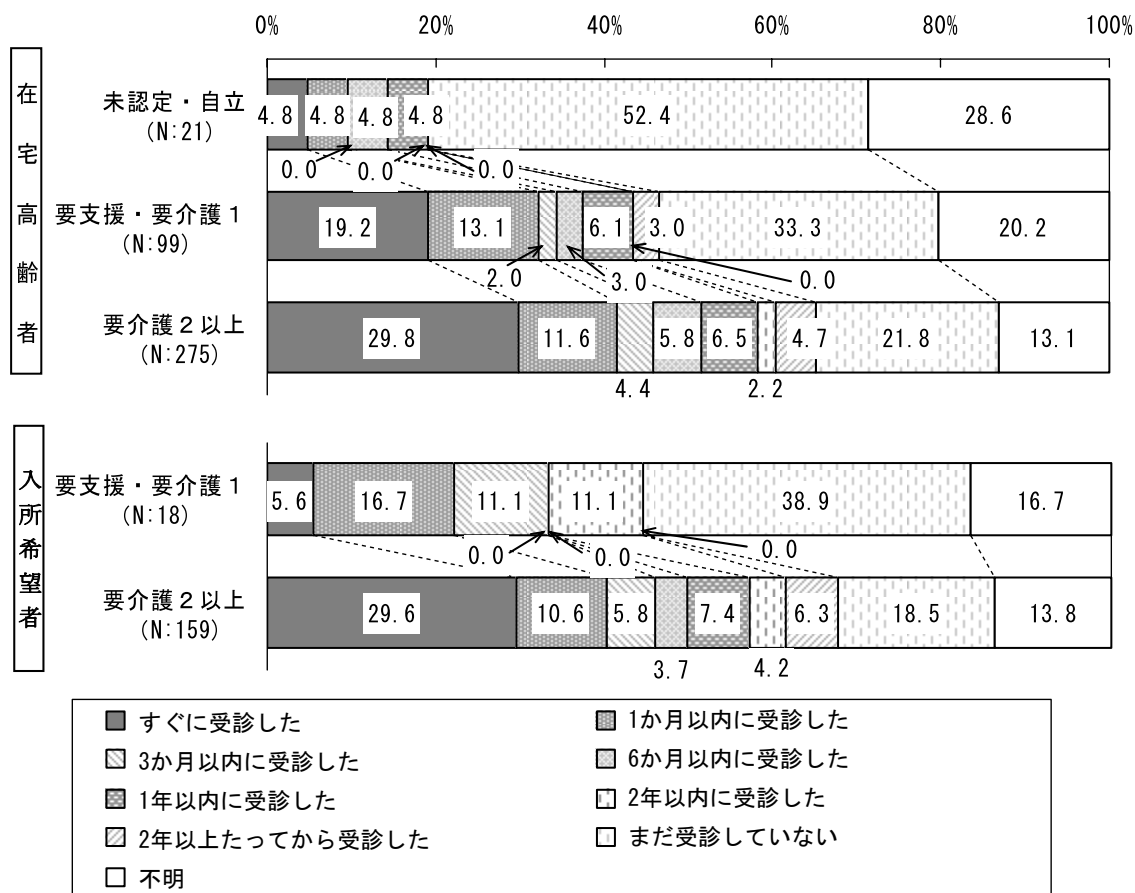
【図表】 3-7 年齢別にみた認知症の可能性のある症状の数



資料：文京区高齢者実態調査報告書（平成17年3月）

○ 同様に、認知症の可能性のある症状で受診するまでの期間をみると、3～4割が1か月以内に受診しているという一方、2～3割は「まだ受診していない」となっています。

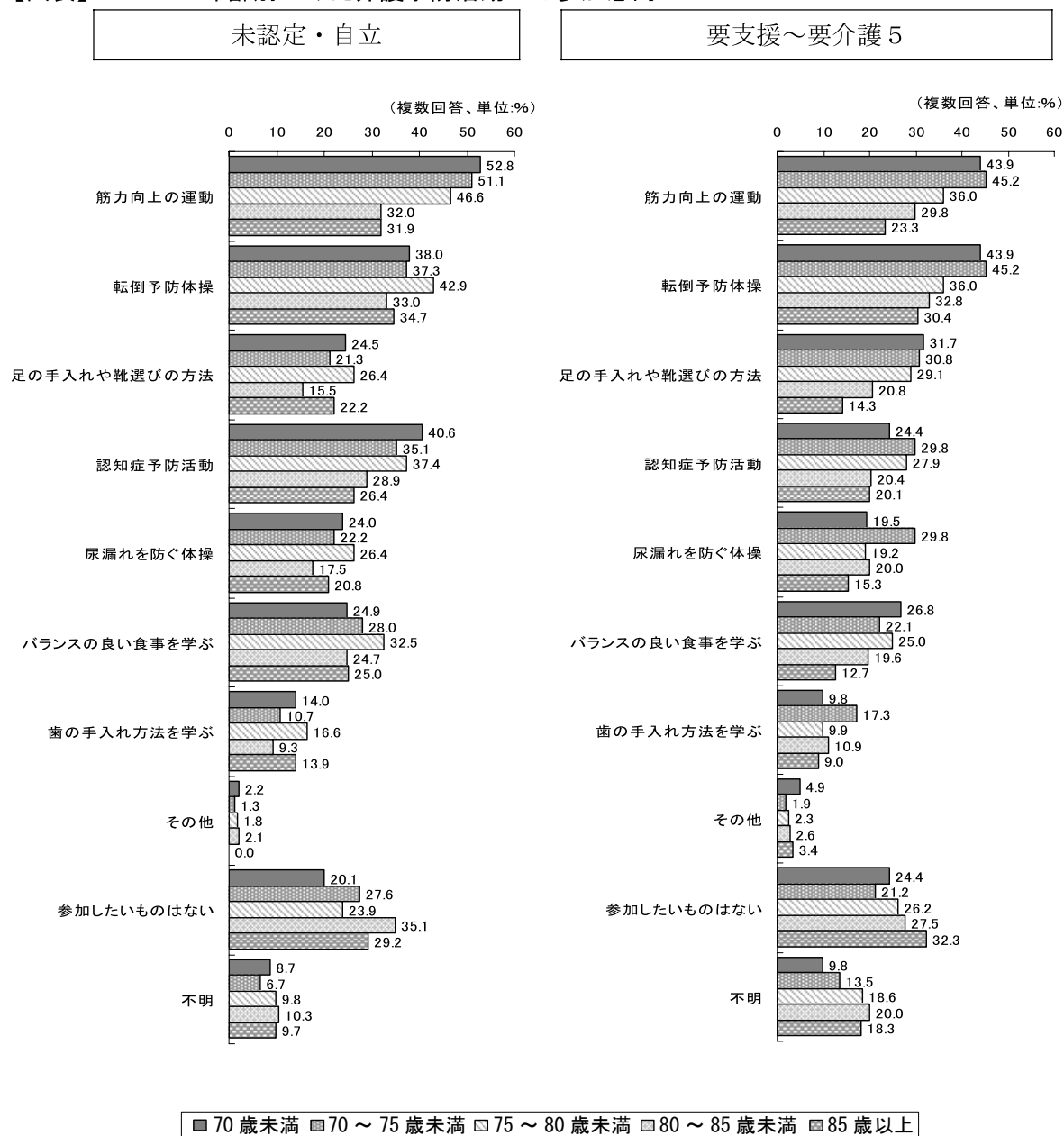
【図表】 3-8 認知症の可能性のある症状で受診するまでの期間



資料：文京区高齢者実態調査報告書（平成17年3月）

○ 介護予防活動への参加意向について年齢別にみると、全般的に年齢の上昇とともに参加意向は低くなる傾向があります。未認定・自立では、75歳～80歳未満で「転倒予防体操」、「バランスの良い食事を学ぶ」などの参加意向が高くなっています。

【図表】 3-9 年齢別にみた介護予防活動への参加意向

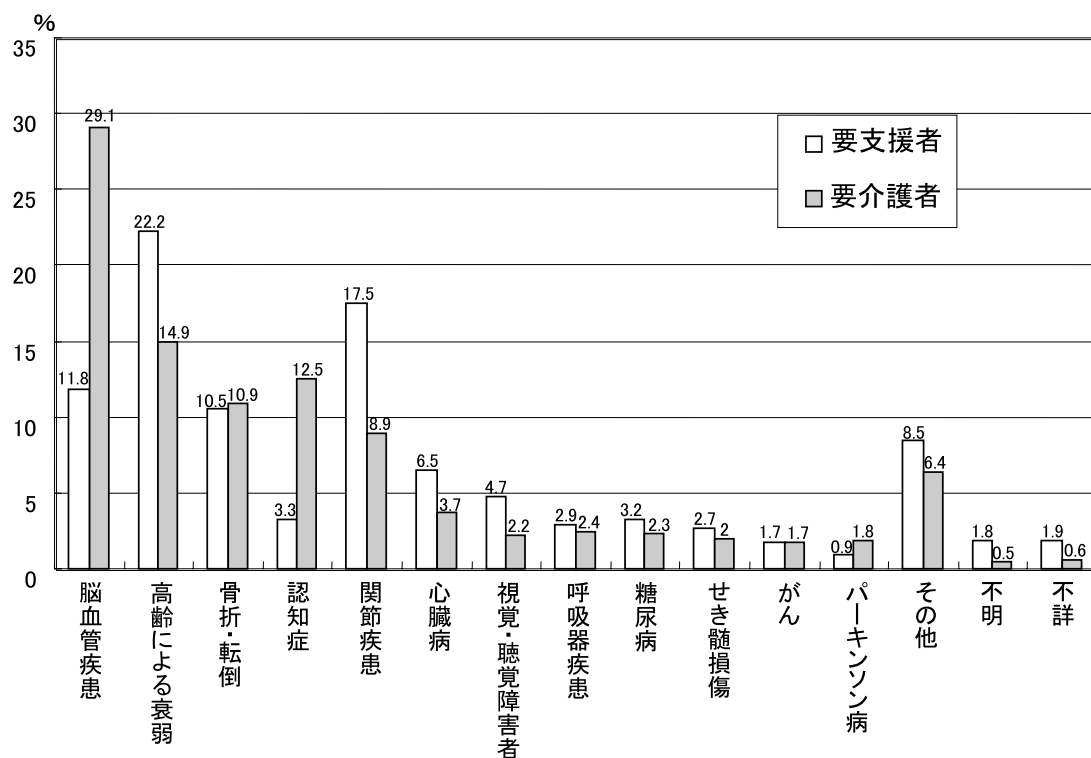


N:	未認定・自立	要支援～要介護5
70歳未満	229	41
70～75歳未満	225	104
75～80歳未満	163	172
80～85歳未満	97	265
85歳以上	72	378

資料：文京区高齢者実態調査報告書（平成17年3月）

- 平成16年の「国民生活基礎調査」によると、介護が必要となった主な原因をみると、要支援者では高齢による衰弱が22.2%、関節疾患（リウマチ等）が17.5%、脳血管疾患（脳卒中等）が11.8%の順となっています。要介護者では脳血管疾患（脳卒中等）が29.1%と多く、要介護度が高いほど割合も多くなっています。以下、高齢による衰弱14.9%、認知症12.5%、骨折・転倒10.9%の順となっています。

【図表】 3-10 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合



資料：国民生活基礎調査（平成16年6月現在）